

### Ⅲ 調査結果の概要（生活実態等）

#### 1 身体障害者手帳の所持の状況

全国の18歳以上の在宅の身体障害者3,245,000人のうち、身体障害者福祉法に基づいて身体障害者手帳を所持している者は、3,117,000人で全体の96.1%であり、所持率は前回調査より増加している。

これを障害の種類別に手帳を所持している者の割合をみると、視覚障害が95.7%、聴覚・言語障害が93.4%、肢体不自由96.2%、内部障害97.2%となっている。

表Ⅲ-1 障害の種類別にみた身体障害者手帳所持の状況

障害の種類	平成13年6月				平成8年11月			
	総数	手帳有り	手帳無し	回答無し	総数	手帳有り	手帳無し	回答無し
総数	3,245 (100.0)	3,117 (96.1)	40 (1.2)	88 (2.7)	2,933 (100.0)	2,657 (90.6)	129 (4.4)	147 (5.0)
視覚障害	301 (100.0)	288 (95.7)	3 (1.0)	10 (3.3)	305 (100.0)	281 (92.1)	12 (3.9)	13 (4.3)
聴覚・言語障害	346 (100.0)	323 (93.4)	9 (2.6)	14 (4.0)	350 (100.0)	313 (89.4)	13 (3.7)	24 (6.9)
聴覚障害	305 (100.0)	286 (93.8)	7 (2.3)	12 (3.9)	304 (100.0)	275 (90.5)	9 (3.0)	20 (6.6)
平衡機能障害	7 (100.0)	6 (85.7)	-	1 (14.3)	4 (100.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	-
音声言語機能障害	34 (100.0)	30 (88.2)	2 (5.9)	1 (2.9)	43 (100.0)	36 (83.7)	2 (4.7)	5 (11.6)
肢体不自由	1,749 (100.0)	1,682 (96.2)	20 (1.1)	47 (2.7)	1,657 (100.0)	1,485 (89.6)	89 (5.4)	83 (5.0)
上肢切断	98 (100.0)	96 (98.0)	-	3 (3.1)	102 (100.0)	91 (89.2)	2 (2.0)	9 (8.8)
上肢機能障害	479 (100.0)	464 (96.9)	4 (0.8)	11 (2.3)	504 (100.0)	456 (90.5)	26 (5.2)	22 (4.4)
下肢切断	49 (100.0)	47 (96.9)	-	2 (4.1)	47 (100.0)	43 (91.5)	2 (4.3)	2 (4.3)
下肢機能障害	563 (100.0)	542 (96.3)	9 (1.6)	13 (2.3)	612 (100.0)	546 (89.2)	36 (5.9)	30 (4.9)
体幹機能障害	167 (100.0)	161 (96.4)	1 (0.6)	5 (3.0)	225 (100.0)	203 (90.2)	11 (4.9)	11 (4.9)
脳原性全身性運動機能障害	60 (100.0)	55 (91.7)	1 (1.7)	3 (5.0)	-	-	-	-
全身性運動機能障害 (多肢及び体幹)	333 (100.0)	318 (95.5)	5 (1.5)	10 (3.0)	168 (100.0)	146 (86.9)	13 (7.7)	8 (4.8)
内部障害	849 (100.0)	825 (97.2)	8 (0.9)	17 (2.0)	621 (100.0)	578 (93.1)	15 (2.4)	28 (4.5)
心臓機能障害	463 (100.0)	451 (97.4)	4 (0.9)	8 (1.7)	336 (100.0)	316 (94.0)	7 (2.1)	14 (4.2)
呼吸器機能障害	89 (100.0)	85 (95.5)	1 (1.1)	3 (3.4)	75 (100.0)	68 (90.7)	3 (4.0)	4 (5.3)
じん臓機能障害	202 (100.0)	199 (98.5)	2 (1.0)	1 (0.5)	142 (100.0)	133 (93.7)	3 (2.1)	6 (4.2)
ぼうこう・直腸機能障害	91 (100.0)	85 (93.4)	1 (1.1)	5 (5.5)	66 (100.0)	60 (90.9)	2 (3.0)	4 (6.1)
小腸機能障害	3 (100.0)	3 (100.0)	-	-	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	-
ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害	2 (100.0)	2 (100.0)	-	-	-	-	-	-
(再掲) 重複障害	175 (100.0)	165 (94.3)	4 (2.3)	7 (4.0)	179 (100.0)	159 (88.8)	11 (6.1)	9 (5.0)

( )内は構成比(%)

## 2 点字修得及びコミュニケーション手段の状況

(1) 視覚障害者で「点字ができる」と答えた者は32,000人(10.6%)である。等級別に「点字ができる」割合をみると、1級が21.0%で最も高い。

表Ⅲ-2 障害の程度別にみた点字修得及び点字必要性の状況

(単位:千人)

障害の程度	総数	点字ができる	点字ができない				回答なし
			小計	点字必要	点字必要なし	回答なし	
総数	301 (100.0)	32 (10.6)	229 (76.1)	17 (5.6)	201 (66.8)	11 (3.7)	40 (13.3)
1級	105 (100.0)	22 (21.0)	75 (71.4)	9 (8.6)	63 (60.0)	4 (3.8)	7 (6.7)
2級	74 (100.0)	9 (12.2)	58 (78.4)	4 (5.4)	49 (66.2)	6 (8.1)	7 (9.5)
3級	27 (100.0)	-	22 (81.5)	-	21 (77.8)	1 (3.7)	6 (22.2)
4級	28 (100.0)	1 (3.6)	23 (82.1)	1 (3.6)	21 (75.0)	1 (3.6)	4 (14.3)
5級	34 (100.0)	1 (2.9)	30 (88.2)	1 (2.9)	29 (85.3)	1 (2.9)	4 (11.8)
6級	32 (100.0)	-	21 (65.6)	1 (3.1)	19 (59.4)	-	11 (34.4)
不明	1 (100.0)	-	-	-	-	-	1 (100.0)

( )内は構成比(%)

(2) 聴覚障害者のコミュニケーション手段としては、「補聴器や人工内耳等の補聴機器」が79.0%と最も高く、次いで「筆談・要約筆記」の24.6%、「手話・手話通訳」の15.4%、「読話」の6.2%の順となっている。

表Ⅲ-3 聴覚障害者のコミュニケーション手段の利用状況(複数回答)

(単位:千人)

総数	補聴器や人工内耳等の補聴機器	筆談・要約筆記	読話	手話・手話通訳	その他
305 (100.0)	241 (79.0)	75 (24.6)	19 (6.2)	47 (15.4)	52 (17.0)

( )内は構成比(%)

### 3 情報入手の状況

- (1) 情報の入手方法の割合をみると、「テレビ」が81.1%と最も高く、次いで「一般図書・新聞・雑誌」の59.7%、「家族・友人」の52.6%である。
- (2) 障害の種類別にみると、聴覚・言語障害、肢体不自由、内部障害では「テレビ（一般放送）」「一般図書・新聞・雑誌」の割合が高いが、視覚障害では「テレビ（一般放送）」「ラジオ」の割合が高く、情報の入手方法が異なっていることを示している。

表Ⅲ－４ 障害の種類別にみた情報の入手方法の状況（複数回答）

(単位:千人)

情報の入手方法	総数	障 害 種 類 別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	3,245 (100.0)	301 (100.0)	346 (100.0)	1,749 (100.0)	849 (100.0)
一般図書・新聞・雑誌	1,936 (59.7)	78 (25.9)	233 (67.3)	1,053 (60.2)	572 (67.4)
録音・点字図書	25 (0.8)	22 (7.3)	-	1 (0.1)	2 (0.2)
ホームページ・電子メール	114 (3.5)	6 (2.0)	11 (3.2)	70 (4.0)	27 (3.2)
携帯電話	150 (4.6)	11 (3.7)	21 (6.1)	83 (4.7)	34 (4.0)
ファックス	111 (3.4)	3 (1.0)	42 (12.1)	45 (2.6)	22 (2.6)
テレビ(一般放送)	2,632 (81.1)	218 (72.4)	261 (75.4)	1,438 (82.2)	715 (84.2)
手話放送・字幕放送	57 (1.8)	-	50 (14.5)	4 (0.2)	3 (0.4)
ラジオ	1,014 (31.2)	167 (55.5)	40 (11.6)	532 (30.4)	275 (32.4)
自治体広報	943 (29.1)	47 (15.6)	91 (26.3)	531 (30.4)	274 (32.3)
家族・友人	1,708 (52.6)	176 (58.5)	190 (54.9)	916 (52.4)	427 (50.3)
その他	135 (4.2)	6 (2.0)	19 (5.5)	70 (4.0)	39 (4.6)

( )内は構成比(%)

#### 4 パソコンの利用状況

(1) パソコンの利用状況を見ると、「毎日利用する」又は「たまに利用する」と答えた者は、281,000人(8.7%)である。これを障害の種類別にみると、内部障害、肢体不自由のパソコン利用率の割合が比較的高い。

表Ⅲ-5 障害の種類別にみたパソコン利用の状況

(単位:千人)

障害の種類	総数	利用する		利用しない		回答なし
		毎日利用する	たまに利用する	ほとんど利用しない	全く利用しない	
総数	3,245 (100.0)	144 (4.4)	137 (4.2)	100 (3.1)	2,228 (68.7)	637 (19.6)
		(8.7)		(71.7)		
視覚障害	301 (100.0)	10 (3.3)	5 (1.7)	4 (1.3)	240 (79.7)	42 (14.0)
		(5.0)		(81.1)		
聴覚・言語障害	346 (100.0)	10 (2.9)	13 (3.8)	10 (2.9)	242 (69.9)	71 (20.5)
		(6.6)		(72.8)		
肢体不自由	1,749 (100.0)	86 (4.9)	77 (4.4)	55 (3.1)	1,165 (66.6)	365 (20.9)
		(9.3)		(69.8)		
内部障害	849 (100.0)	38 (4.5)	42 (4.9)	30 (3.5)	581 (68.4)	159 (18.7)
		(9.4)		(72.0)		

( )内は構成比(%)

(2) パソコンを「ほとんど利用しない」又は「全く利用しない」と答えた者(2,328,000人)のうち、パソコン利用を希望しているのは457,000人(19.6%)である。

表Ⅲ-6 障害の種類別にみたパソコン利用希望の状況

(単位:千人)

パソコン利用希望	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	2,328 (100.0)	244 (100.0)	252 (100.0)	1,221 (100.0)	611 (100.0)
利用したいと思う	457 (19.6)	27 (11.1)	37 (14.7)	250 (20.5)	144 (23.6)
利用したいと思わない	929 (39.9)	123 (50.4)	103 (40.9)	452 (37.0)	251 (41.1)
わからない	512 (22.0)	48 (19.7)	73 (29.0)	275 (22.5)	115 (18.8)
回答なし	430 (18.5)	47 (19.3)	39 (15.5)	244 (20.0)	101 (16.5)

( )内は構成比(%)

## 5 日常生活動作の状況

(1) 日常の生活動作として、「食事」「食事のしたくや後かたづけ」「排泄」「入浴」「衣服の着脱」「掃除・整理整頓」「洗濯」「寝返り」「家の中を移動」「外出」「日常の買い物」の11の動作の状況についてみると、

ア 日常生活動作を「一人でできる(時間をかければできるを含む)」者については「食事をする」が87.8%と最も高く、「日常の買い物をする」が56.9%と最も低い割合となっている。

イ 一方、「一部介助を要する」者については、「外出をする」が11.4%と最も高く、「寝返りをする」が3.4%と最も低い割合となっている。

ウ さらに、「全部介助を要する」者については、「日常の買い物をする」が20.9%、「洗濯をする」が19.8%、「食事のしたくや後かたづけをする」が17.4%、「外出をする」が16.5%、「身の回りの掃除、整理整頓をする」が15.7%、「入浴をする」が12.2%などとなっており、「日常の買い物をする」が最も高くなっている。

表Ⅲ-7 日常生活動作の介助状況

(単位:千人)

日常生活動作の種類	総数	一人でできる	時間をかければできる	一部介助が必要	全部介助が必要	回答なし
食事をする	3,245 (100.0)	2,571	277	126	121	152
		(79.2)	(8.5)	(3.9)	(3.7)	(4.7)
		(87.8)		(7.6)		
食事のしたくや後かたづけをする	3,245 (100.0)	1,638	382	243	565	417
		(50.5)	(11.8)	(7.5)	(17.4)	(12.9)
		(62.2)		(24.9)		
排泄をする	3,245 (100.0)	2,394	230	148	232	241
		(73.8)	(7.1)	(4.6)	(7.1)	(7.4)
		(80.9)		(11.7)		
入浴をする	3,245 (100.0)	2,131	231	284	397	203
		(65.7)	(7.1)	(8.8)	(12.2)	(6.3)
		(72.8)		(21.0)		
衣服の着脱をする	3,245 (100.0)	2,148	369	249	269	211
		(66.2)	(11.4)	(7.7)	(8.3)	(6.5)
		(77.6)		(16.0)		
身の回りの掃除、整理整頓をする	3,245 (100.0)	1,736	371	307	509	323
		(53.5)	(11.4)	(9.5)	(15.7)	(10.0)
		(64.9)		(25.1)		
洗濯をする	3,245 (100.0)	1,694	314	180	642	415
		(52.2)	(9.7)	(5.5)	(19.8)	(12.8)
		(61.9)		(25.3)		
寝返りをする	3,245 (100.0)	2,446	285	110	155	249
		(75.4)	(8.8)	(3.4)	(4.8)	(7.7)
		(84.2)		(8.2)		
家の中を移動する	3,245 (100.0)	2,280	356	141	220	249
		(70.3)	(11.0)	(4.3)	(6.8)	(7.7)
		(81.2)		(11.1)		
外出をする	3,245 (100.0)	1,788	276	370	535	277
		(55.1)	(8.5)	(11.4)	(16.5)	(8.5)
		(63.6)		(27.9)		
日常の買い物をする	3,245 (100.0)	1,569	277	328	679	393
		(48.4)	(8.5)	(10.1)	(20.9)	(12.1)
		(56.9)		(31.0)		

( )内は構成比(%)

(2) 日常生活動作の介助を必要とする者についての主な介助者では、「配偶者」「子供」等の家族が「入浴をする」で56.9%、「食事をする」で73.2%を占めており、全体的に家族の割合が高い。

表Ⅲ-8 日常生活動作別にみた主な介助者の状況

(単位:千人)

日常生活動作の種類	総数	配偶者	親	子供	その他の家族	親戚	訪問介護員	隣人知人	雇人	ボランティア	その他	いない	回答なし
食事をする	246 (100.0)	105 (42.7)	26 (10.6)	32 (13.0)	17 (6.9)	1 (0.4)	6 (2.4)	-	-	-	17 (6.9)	1 (0.4)	43 (17.5)
		(73.2)				(9.8)							
食事のしたくや後かたづけをする	808 (100.0)	297 (36.8)	90 (11.1)	114 (14.1)	62 (7.7)	4 (0.5)	31 (3.8)	1 (0.1)	1 (0.1)	-	35 (4.3)	1 (0.1)	172 (21.3)
		(69.7)				(8.9)							
排泄をする	380 (100.0)	133 (35.0)	34 (8.9)	64 (16.8)	23 (6.1)	2 (0.5)	10 (2.6)	1 (0.3)	-	1 (0.3)	29 (7.6)	1 (0.3)	83 (21.8)
		(66.8)				(11.3)							
入浴をする	680 (100.0)	211 (31.0)	43 (6.3)	74 (10.9)	59 (8.7)	1 (0.1)	73 (10.7)	1 (0.1)	1 (0.1)	2 (0.3)	63 (9.3)	1 (0.1)	152 (22.4)
		(56.9)				(20.7)							
衣服の着脱する	517 (100.0)	200 (38.7)	37 (7.2)	56 (10.8)	30 (5.8)	22 (4.3)	20 (3.9)	1 (0.2)	-	-	33 (6.4)	1 (0.2)	116 (22.4)
		(62.5)				(14.7)							
身の回りの掃除、整理整頓をする	815 (100.0)	290 (35.6)	57 (7.0)	107 (13.1)	55 (6.7)	4 (0.5)	84 (10.3)	1 (0.1)	2 (0.2)	2 (0.2)	33 (4.0)	1 (0.1)	178 (21.8)
		(62.5)				(15.5)							
洗濯をする	823 (100.0)	313 (38.0)	60 (7.3)	110 (13.4)	66 (8.0)	5 (0.6)	31 (3.8)	31 (3.8)	2 (0.2)	-	32 (3.9)	1 (0.1)	172 (20.9)
		(66.7)				(12.3)							
寝返りをする	265 (100.0)	99 (37.4)	17 (6.4)	29 (10.9)	13 (4.9)	1 (0.4)	6 (2.3)	1 (0.4)	12 (4.5)	-	26 (9.8)	1 (0.4)	59 (22.3)
		(59.6)				(17.4)							
家の中を移動する	361 (100.0)	119 (33.0)	26 (7.2)	45 (12.5)	26 (7.2)	1 (0.3)	9 (2.5)	1 (0.3)	1 (0.3)	17 (4.7)	29 (8.0)	1 (0.3)	86 (23.8)
		(59.8)				(16.1)							
外出をする	905 (100.0)	313 (34.6)	57 (6.3)	140 (15.5)	61 (6.7)	7 (0.8)	40 (4.4)	4 (0.4)	2 (0.2)	3 (0.3)	67 (7.4)	3 (0.3)	208 (23.0)
		(63.1)				(13.6)							
日常の買い物をする	1007 (100.0)	361 (35.8)	61 (6.1)	160 (15.9)	80 (7.9)	6 (0.6)	43 (4.3)	4 (0.4)	4 (0.4)	1 (0.1)	29 (2.9)	35 (3.5)	222 (22.0)
		(65.7)				(8.6)							

( )内は構成比(%)

## 6 外出の状況

(1) 過去1年間における外出の状況をみると、外出をしたことがある者が全体の89.9%となっており、これを障害の種類別にみると、それぞれ8割以上の者が外出をしており、なかでも内部障害の93.1%が最も高い。

また、外出していない者は全体の6.1%であり、障害の種類別にみると肢体不自由が8.1%で最も高い。

外出の回数をみると、「ほぼ毎日」(40.4%)が最も多く、次に「週に2～3回」(24.3%)、「月に2～3回」(15.3%)の順となっている。

表Ⅲ-9 障害の種類別にみた外出の有無及び外出回数の状況

(単位:千人)

障害の種類	総数	外出あり					外出なし	回答なし
		小計	ほぼ毎日	週に2～3回	月に2～3回	年に数回		
総数	3,245 (100.0)	2,918 (89.9)	1,312 (40.4)	790 (24.3)	495 (15.3)	322 (9.9)	197 (6.1)	130 (4.0)
視覚障害	301 (100.0)	271 (90.0)	91 (30.2)	80 (26.6)	61 (20.3)	40 (13.3)	20 (6.6)	10 (3.3)
聴覚・言語障害	346 (100.0)	320 (92.5)	182 (52.6)	67 (19.4)	42 (12.1)	29 (8.4)	11 (3.2)	16 (4.6)
肢体不自由	1,749 (100.0)	1,538 (87.9)	654 (37.4)	418 (23.9)	278 (15.9)	188 (10.7)	141 (8.1)	70 (4.0)
内部障害	849 (100.0)	790 (93.1)	386 (45.5)	225 (26.5)	114 (13.4)	65 (7.7)	25 (2.9)	34 (4.0)

( )内は構成比(%)

(2) 障害の種類別に外出者総数に対し本人のみで外出している割合をみると、聴覚・言語障害が47.5%で最も高く、視覚障害は33.6%と最も低い。

また、外出時の介助者の状況をみると、「配偶者」(19.6%)が最も多く、次に「子供」(8.4%)、「他の家族」(3.0%)、「ホームヘルパー」(2.7%)の順となっている。

表Ⅲ-10 障害の種類別にみた外出時の主な介助者の状況

(単位:千人)

障害の種類	総数	本人のみ	配偶者	親	子供	その他の家族	親戚	ホームヘルパー
総数	2,918 (100.0)	1,173 (40.2)	571 (19.6)	68 (2.3)	244 (8.4)	88 (3.0)	20 (0.7)	78 (2.7)
視覚障害	271 (100.0)	91 (33.6)	69 (25.5)	6 (2.2)	32 (11.8)	14 (5.2)	3 (1.1)	9 (3.3)
聴覚・言語障害	320 (100.0)	152 (47.5)	22 (6.9)	3 (0.9)	27 (8.4)	11 (3.4)	4 (1.3)	6 (1.9)
肢体不自由	1,538 (100.0)	568 (36.9)	334 (21.7)	55 (3.6)	134 (8.7)	42 (2.7)	9 (0.6)	55 (3.6)
内部障害	790 (100.0)	361 (45.7)	146 (18.5)	4 (0.5)	51 (6.5)	20 (2.5)	4 (0.5)	8 (1.0)

隣人・知人	雇人	ボランティア	手話通訳者	盲ろう者通訳・介助者	要約筆記者	その他	回答なし
31 (1.1)	4 (0.1)	7 (0.2)	1 0.0	4 (0.1)	1 0.0	45 (1.5)	582 (19.9)
8 (3.0)	-	1 (0.4)	-	-	-	4 (1.5)	34 (12.5)
2 (0.6)	1 (0.3)	-	1 (0.3)	-	1 (0.3)	6 (1.9)	83 (25.9)
12 (0.8)	2 (0.1)	5 (0.3)	-	4 (0.3)	1 (0.1)	30 (2.0)	287 (18.7)
9 (1.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	-	1 (0.1)	-	6 (0.8)	178 (22.5)

( )内は構成比(%)

(3) 外出するうえで困ることや不満がある人は全体の42.3%であり、その内容についてみると、「乗り物の利用が不便」(8.8%)、「利用する建物の設備が不便」(8.0%)、「車などに危険を感じる」(6.5%)の順となっている。また、障害の種類別では、聴覚・言語障害の「人と話をすることが困難」(20.0%)、視覚障害の「乗り物の利用が不便」(11.4%)、肢体不自由の「利用する建物の設備が不便」(10.5%)の割合が高い。

表Ⅲ-11 障害の種類別にみた外出するうえで困ることの状況(複数回答)

(単位:千人)

困ることや不満に思うことがある外出者数・その内容	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	2,918 (100.0)	271 (100.0)	320 (100.0)	1,538 (100.0)	790 (100.0)
困ることや不満に思うことがある外出者総数	1,235 (42.3)	140 (51.7)	137 (42.8)	716 (46.6)	242 (30.6)
電車・バス・タクシー等の乗り物の利用が不便	258 (8.8)	31 (11.4)	26 (8.1)	154 (10.0)	47 (5.9)
道路や駅などの公共の場所の利用が不便	170 (5.8)	19 (7.0)	8 (2.5)	118 (7.7)	25 (3.2)
利用する建物の設備(階段、トイレエレベーター等)が不便	234 (8.0)	21 (7.7)	8 (2.5)	162 (10.5)	44 (5.6)
車などに身の危険を感じる	190 (6.5)	25 (9.2)	23 (7.2)	111 (7.2)	32 (4.1)
介助者がいない	19 (0.7)	2 (0.7)	3 (0.9)	10 (0.7)	4 (0.5)
経費がかかる	75 (2.6)	6 (2.2)	7 (2.2)	43 (2.8)	19 (2.4)
人の目が気にかかる	47 (1.6)	4 (1.5)	6 (1.9)	33 (2.1)	4 (0.5)
人と話をすることが困難	80 (2.7)	1 (0.4)	64 (20.0)	9 (0.6)	7 (0.9)
外出に必要な情報が得られない	16 (0.5)	1 (0.4)	7 (2.2)	5 (0.3)	2 (0.3)
駅などにおける人間関係のトラブル	11 (0.4)	2 (0.7)	4 (1.3)	4 (0.3)	1 (0.1)
駅員等に不当な扱いを受ける	11 (0.4)	3 (1.1)	3 (0.9)	3 (0.2)	2 (0.3)
事前に行き先を家族等に告げなければ外出できない	24 (0.8)	3 (1.1)	4 (1.3)	9 (0.6)	9 (1.1)
その他	63 (2.2)	6 (2.2)	7 (2.2)	31 (2.0)	19 (2.4)
回答なし	645 (22.1)	36 (13.3)	70 (21.9)	292 (19.0)	247 (31.3)

( )内は構成比(%)



## 7 社会活動等の状況

- (1) 過去1年間における社会活動等の状況をみると、全体の46.3%が社会活動をしたと答えている。また、社会活動の内容をみると、旅行等(26.2%)が最も多く、次いでコンサート等(17.7%)、同好会(12.8%)の順である。

表Ⅲ-12 障害の種類別に見た過去1年間の社会活動等の状況(複数回答)

(単位:千人)

社会活動をした 身体障害者数 社会活動の内容	総数	障 害 種 類 別			
		視覚障害	聴覚・ 言語障害	肢体 不自由	内部障害
総数	3,245 (100.0)	301 (100.0)	346 (100.0)	1,749 (100.0)	849 (100.0)
社会活動をした 身体障害者数	1,504 (46.3)	108 (35.9)	160 (46.2)	805 (46.0)	430 (50.6)
コンサート等	573 (17.7)	32 (10.6)	58 (16.8)	306 (17.5)	176 (20.7)
スポーツ教室	259 (8.0)	22 (7.3)	41 (11.8)	140 (8.0)	56 (6.6)
旅行等	849 (26.2)	57 (18.9)	93 (26.9)	460 (26.3)	239 (28.2)
学習活動	269 (8.3)	19 (6.3)	31 (9.0)	145 (8.3)	74 (8.7)
同好会	414 (12.8)	27 (9.0)	41 (11.8)	217 (12.4)	129 (15.2)
ボランティア	208 (6.4)	16 (5.3)	26 (7.5)	105 (6.0)	62 (7.3)
障害者団体等	310 (9.6)	29 (9.6)	43 (12.4)	172 (9.8)	65 (7.7)
自治会活動	283 (8.7)	18 (6.0)	28 (8.1)	155 (8.9)	82 (9.7)
パソコン利用	221 (6.8)	14 (4.7)	21 (6.1)	128 (7.3)	58 (6.8)
その他	138 (4.3)	9 (3.0)	17 (4.9)	77 (4.4)	35 (4.1)

( )内は構成比(%)

- (2) 今後したい社会活動の状況は、旅行等(19.8%)、コンサート等(12.5%)、パソコン利用(10.5%)の順に高い割合を示している。

表Ⅲ-13 障害の種類別にみた今後したい社会活動等の状況(複数回答)

(単位:千人)

今後社会活動をし たい身体障害者数 社会活動の内容	総数	障 害 種 類 別			
		視覚障害	聴覚・ 言語障害	肢体 不自由	内部障害
総数	3,245 (100.0)	301 (100.0)	346 (100.0)	1,749 (100.0)	849 (100.0)
今後社会活動をし たい身体障害者数	1,142 (35.2)	88 (29.2)	105 (30.3)	639 (36.5)	311 (36.6)
コンサート等	407 (12.5)	31 (10.3)	33 (9.5)	232 (13.3)	111 (13.1)
スポーツ教室	190 (5.9)	17 (5.6)	27 (7.8)	96 (5.5)	50 (5.9)
旅行等	644 (19.8)	51 (16.9)	60 (17.3)	368 (21.0)	165 (19.4)
学習活動	209 (6.4)	19 (6.3)	22 (6.4)	115 (6.6)	52 (6.1)
同好会	318 (9.8)	23 (7.6)	30 (8.7)	179 (10.2)	85 (10.0)
ボランティア	176 (5.4)	15 (5.0)	17 (4.9)	96 (5.5)	48 (5.7)
障害者団体等	221 (6.8)	19 (6.3)	24 (6.9)	135 (7.7)	42 (4.9)
自治会活動	106 (3.3)	6 (2.0)	11 (3.2)	57 (3.3)	33 (3.9)
パソコン利用	340 (10.5)	23 (7.6)	27 (7.8)	186 (10.6)	104 (12.2)
その他	62 (1.9)	4 (1.3)	11 (3.2)	32 (1.8)	15 (1.8)

( )内は構成比(%)

## 8 医療機関で治療を受けた状況

- (1) 過去1年間に病気等のために治療を受けたかどうかをみると、何らかの治療を受けた者は、73.5%、全く治療を受けなかった者は20.0%である。
- (2) 治療期間の状況でみると、「31日以上」が27.7%で最も多い。

表Ⅲ-14 障害の種類別にみた過去1年間の医療機関での治療の状況

(単位:千人)

障害の種類	総数	受療なし	治療した				回答なし
			小計	1日～10日	11日～30日	31日以上	
総数	3,245 (100.0)	649 (20.0)	2,384 (73.5)	598 (18.4)	886 (27.3)	900 (27.7)	212 (6.5)
視覚障害	301 (100.0)	65 (21.6)	218 (72.4)	70 (23.3)	88 (29.2)	60 (19.9)	17 (5.6)
聴覚・言語障害	346 (100.0)	131 (37.9)	176 (50.9)	77 (22.3)	52 (15.0)	47 (13.6)	40 (11.6)
肢体不自由	1,749 (100.0)	415 (23.7)	1,222 (69.9)	333 (19.0)	401 (22.9)	488 (27.9)	113 (6.5)
内部障害	849 (100.0)	38 (4.5)	770 (90.7)	119 (14.0)	346 (40.8)	305 (35.9)	42 (4.9)

( )内は構成比(%)

## 9 住宅の状況

- (1) 現在居住している住宅についてみると、「持ち家」に居住する者が82.9%、「借家」は13.3%である。

表Ⅲ-15 障害の種類別にみた住宅の状況

(単位:千人)

障害の種類	総数	持ち家		借家			借間	その他	回答なし
		自身の持ち家	家族の持ち家	民間賃貸	社宅等	公社等			
総数	3,245 (100.0)	1,691 (52.1)	998 (30.8)	210 (6.5)	25 (0.8)	195 (6.0)	33 (1.0)	26 (0.8)	68 (2.1)
		(82.9)		(13.3)					
視覚障害	301 (100.0)	154 (51.2)	93 (30.9)	24 (8.0)	-	16 (5.3)	3 (1.0)	2 (0.7)	9 (3.0)
		(82.1)		(13.3)					
聴覚・言語障害	346 (100.0)	166 (48.0)	114 (32.9)	22 (6.4)	4 (1.2)	23 (6.6)	3 (0.9)	4 (1.2)	9 (2.6)
		(80.9)		(14.2)					
肢体不自由	1,749 (100.0)	902 (51.6)	561 (32.1)	106 (6.1)	15 (0.9)	103 (5.9)	16 (0.9)	14 (0.8)	32 (1.8)
		(83.6)		(12.8)					
内部障害	849 (100.0)	469 (55.2)	229 (27.0)	57 (6.7)	6 (0.7)	52 (6.1)	11 (1.3)	6 (0.7)	18 (2.1)
		(82.2)		(13.5)					

( )内は構成比(%)

(2) 住宅の改修の状況についてみると、全体の46.6%が住宅を改修しており、障害の種類別では、肢体不自由の51.3%が住宅を改修しており最も高くなっている。

また、改修していない理由についてみると「必要ない」(22.3%)「資金がない」(8.6%)などとなっている。

表Ⅲ-16 障害の種類別にみた住宅の改修の状況

(単位:千人)

障害の種類	総数	改修した	構造上 難しい	借家、借間の ためできない	資金がない	必要ない	回答なし
総数	3,245 (100.0)	1,512 (46.6)	87 (2.7)	124 (3.8)	280 (8.6)	723 (22.3)	519 (16.0)
視覚障害	301 (100.0)	117 (38.9)	11 (3.7)	13 (4.3)	30 (10.0)	79 (26.2)	50 (16.6)
聴覚・ 言語障害	346 (100.0)	137 (39.6)	6 (1.7)	11 (3.2)	32 (9.2)	98 (28.3)	63 (18.2)
肢体不自由	1,749 (100.0)	897 (51.3)	44 (2.5)	68 (3.9)	149 (8.5)	333 (19.0)	258 (14.8)
内部障害	849 (100.0)	361 (42.5)	26 (3.1)	32 (3.8)	69 (8.1)	213 (25.1)	148 (17.4)

( )内は構成比(%)

(3) 住宅の改修した場所についてみると「トイレ」が26.8%と最も多く、次いで「風呂」25.3%の順である。特に、肢体不自由で「トイレ」(31.2%)、「風呂」(29.3%)が高い割合を示している。

表Ⅲ-17 障害の種類別にみた住宅の改修場所の状況(複数回答)

(単位:千人)

障害の種類	総数	改善・改造をした場所								
		玄関	風呂	トイレ	台所	廊下	階段	居室	訪問灯等の設置	その他
総数	3,245 (100.0)	335 (10.3)	820 (25.3)	870 (26.8)	344 (10.6)	287 (8.8)	236 (7.3)	277 (8.5)	73 (2.2)	230 (7.1)
視覚障害	301 (100.0)	22 (7.3)	57 (18.9)	53 (17.6)	24 (8.0)	18 (6.0)	12 (4.0)	27 (9.0)	13 (4.3)	24 (8.0)
聴覚・ 言語障害	346 (100.0)	26 (7.5)	73 (21.1)	81 (23.4)	38 (11.0)	17 (4.9)	17 (4.9)	29 (8.4)	17 (4.9)	19 (5.5)
肢体不自由	1,749 (100.0)	230 (13.2)	513 (29.3)	546 (31.2)	188 (10.7)	201 (11.5)	156 (8.9)	157 (9.0)	32 (1.8)	117 (6.7)
内部障害	849 (100.0)	57 (6.7)	177 (20.8)	190 (22.4)	94 (11.1)	51 (6.0)	52 (6.1)	64 (7.5)	11 (1.3)	70 (8.2)

( )内は構成比(%)

## 10 同居者の有無及び障害者自身の課税等の状況

(1) 同居者の有無の状況をみると、「同居者有」の割合は85.9%で、「同居者なし」は9.3%である。障害の種類別にみると、肢体不自由の「同居者有」の割合が87.3%と最も高く、視覚障害者が81.7%と最も低い。

表Ⅲ-18 障害の種類別にみた同居者の状況

(単位:千人)

同居者の有無	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	3,245 (100.0)	301 (100.0)	346 (100.0)	1,749 (100.0)	849 (100.0)
同居者有	2,789 (85.9)	246 (81.7)	283 (81.8)	1,527 (87.3)	732 (86.2)
同居者なし	303 (9.3)	40 (13.3)	41 (11.8)	145 (8.3)	78 (9.2)
不詳	153 (4.7)	15 (5.0)	22 (6.4)	76 (4.3)	40 (4.7)

( )内は構成比(%)

(2) 障害者自身の課税状況をみると、所得税を課税されている者が23.7%、非課税の者が54.1%である。

また、市町村民税の課税状況をみると、所得割を課税されている者は22.2%、均等割のみを課税されている者が10.5%、非課税の者が43.0%である。

表Ⅲ-19 障害の種類別に見た障害者自身の課税の状況

(単位:千人)

障害の程度	総数	所得税			市町村民税			
		課税	非課税	回答なし	所得割	均等割	非課税	回答なし
総数	3,245 (100.0)	769 (23.7)	1,757 (54.1)	720 (22.2)	722 (22.2)	341 (10.5)	1,394 (43.0)	789 (24.3)
視覚障害	301 (100.0)	47 (15.6)	182 (60.5)	72 (23.9)	40 (13.3)	28 (9.3)	152 (50.5)	81 (26.9)
聴覚・言語障害	346 (100.0)	70 (20.2)	188 (54.3)	89 (25.7)	59 (17.1)	39 (11.3)	161 (46.5)	88 (25.4)
肢体不自由	1,749 (100.0)	406 (23.2)	966 (55.2)	377 (21.6)	375 (21.4)	180 (10.3)	766 (43.8)	427 (24.4)
内部障害	849 (100.0)	246 (29.0)	421 (49.6)	182 (21.4)	249 (29.3)	93 (11.0)	315 (37.1)	193 (22.7)

( )内は構成比(%)

(3) 生活保護の受給の状況についてみると、生活保護を受けている者は2.8%である。

表Ⅲ-20 障害の種類別に見た障害者自身の生活保護受給の状況

(単位:千人)

障害の種類	総数	受給している	受給していない	回答なし
総数	3,245 (100.0)	90 (2.8)	2,244 (69.2)	911 (28.1)
視覚障害	285 (100.0)	10 (3.5)	198 (69.5)	78 (27.4)
聴覚・ 言語障害	328 (100.0)	8 (2.4)	218 (66.5)	103 (31.4)
肢体不自由	1,652 (100.0)	44 (2.7)	1,154 (69.9)	454 (27.5)
内部障害	805 (100.0)	23 (2.9)	547 (68.0)	235 (29.2)
重複障害 (別掲)	175 (100.0)	5 (2.9)	129 (73.7)	42 (24.0)

( )内は構成比(%)

### 11 年金・手当の受給状況

- (1) 年金の受給状況をみると、何らかの公的年金を受給している者は2,075,000人であり、全体の63.9%を占めている。
- (2) 障害に起因する年金を受給している者は1,762,000人(54.3%)であり、障害に起因する年金を受給していないが、老齢年金、遺族年金等(恩給等を含む)を受給している者は313,000人(9.6%)である。
- (3) 手当の受給状況をみると、何らかの手当を受給している者は19.0%であり、手当を受給していない者は45.0%である。

表Ⅲ-21 年金の受給状況

(単位:千人)

総数	年金を受給している				年金を受給していない	回答なし	
3,245 (100.0)	2,075 (63.9)				455 (14.0)	716 (22.1)	
	障害に起因する年金受給者						
	小計	国民年金	厚生年金 共済年金	他の障害年金			障害に起因 しない年金 受給者
	1,762 (54.3)	792 (24.4)	802 (24.7)	219 (6.7)			313 (9.6)

( )内は構成比(%)

- (注) 1 「年金を受給していない」には、受給の対象となる障害の程度に該当しない者や年齢・所得制限等により支給を受けていない者も含まれる。
- 2 障害に起因する年金には、公的年金の他に恩給、労災保険による年金等を含む。
- 3 「障害に起因する年金受給者」の種類別受給については、国民年金と厚生年金、共済年金は併給できる場合が有ること等により、複数回答となっている。
- 4 他の障害年金とは、恩給、労災保険による年金等をいう。

表Ⅲ-22 手当の受給の状況

(単位:千人)

総数	手当を受給している	手当を受給していない	回答なし
3,245 (100.0)	617 (19.0)	1,461 (45.0)	1,167 (36.0)

( )内は構成比(%)

## 12 就業の状況

(1) 就業の状況をみると、「就業者」は738,000人、「不就業者」は2,429,000人である。

就業者の割合を障害の種類別にみると、聴覚・言語障害が25.4%と最も高く、肢体不自由が21.5%と最も低い。

表Ⅲ－２３ 障害の種類別にみた就業・不就業の状況

(単位:千人)

障害の種類	総数	就業者	不就業者	回答なし
総数	3,245 (100.0)	738 (22.7)	2,429 (74.9)	78 (2.4)
視覚障害	301 (100.0)	72 (23.9)	221 (73.4)	8 (2.7)
聴覚・ 言語障害	346 (100.0)	88 (25.4)	249 (72.0)	9 (2.6)
肢体不自由	1,749 (100.0)	376 (21.5)	1,331 (76.1)	42 (2.4)
内部障害	849 (100.0)	203 (23.9)	627 (73.9)	19 (2.2)

( )内は構成比(%)

(2) 就業率をみると、今回の調査では23.3%となっており、前回調査から減少している。

前回からの伸び率をみても、前回調査に対して、「一般の就業率」(96.6%)、「身体障害者の就業率」(77.4%)共に減少している。

表Ⅲ－２４ 就業状況別身体障害者数及び就業率の年次推移

調査年月	総数	就業者	不就業者	回答なし	就業率	一般
						(総務省労働力調査) (15歳以上就業率)
	千人	千人	千人	千人	%	%
昭和35年7月	829	387	442	-	46.7	70.6
40年8月	1,048	412	636	-	39.3	66.8
45年10月	1,314	579	735	-	44.1	68.8
55年2月	1,977	638	1,320	19	32.6	64.4
62年2月	2,413	701	1,698	13	29.2	59.0
平成3年11月	2,722	894	1,731	97	34.1	62.0
8年11月	2,933	845	1,958	131	30.1	61.5
13年6月	3,245	738	2,429	78	23.3	59.4
前回比 (13年/8年)	110.6	87.3	124.1	59.5	77.4	96.6

(注) 就業率の算定に当たっては、就業者/就業者+不就業者(「回答なし」を除く。)によった。